

平成29年5月

第33号

# 曹洞宗中国管区 教化センターだより

ともに願い ともに寄り添い ともに歩む

表紙写真

大山榎水高原からの  
中海に沈む夕日

《発行所》 曹洞宗中国管区教化センター

〒683-0802 米子市東福原1-1-22 ウエストビル402号室 TEL.0859-31-5161 FAX.0859-31-5163  
HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/株式会社 メディアーツ  
TEL.0848-36-5671

# 平成二十九年年度 布教教化に関する告諭

曹洞宗管長 福山 諦法

私たちは、今、多くの課題を前にその生き方が問われています。

東日本大震災、大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故から六年、そして日本各地で発生している自然災害のため、依然として多くの人々が悲しみと不安の中にいます。また、地球温暖化と災害、戦争、紛争、テロ、貧困、格差、自死、いじめ等の深刻な問題が次々と起こっています。

この現実を直視し、私たちは「人権の尊重、平和の実現、環境の保全」の取り組みを柱とし、「殺すなかれ、殺させるなかれ」のみ教えのもと、互いに慈しみあう争いのない社会、原子力に頼らない社会、そして、「いのち」を生かしあう社会の実現を願っています。

本年度も、四摂法の「同事」のおさとしに学び、「ともに願い」とともに寄り添い「ともに歩む」願望を進めます。「修証義」に「海の水を辞せざるは同事なり、このゆえに、よく水あつまりて海となるなり」と説かれています。いかなる水も拒まない海の姿が「同事」

です。一人ひとりの悲しみや苦しみを受け止めあい、支えあう同悲・同苦の生き方であり、すべての人や物との間に垣根を作らない和合の生き方です。

無常迅速の人生にあつて、「一仏兩祖のみ教えを相承し(うけつぎ)、み仏とご先祖の前で姿勢を調え心を調えて静かに坐りましょう。大慈大悲の坐禅はおのずから自己一如の「同事」の力となります。

日々、他を思いやり共に生きる菩薩の誓願を実践してまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏

南無高祖承陽大師道元禪師

南無太祖常済大師瑩山禪師

## 平成二十九年年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏兩祖のみ教えを守り、坐禅に親しみ、ともに生きることを本旨としております。それは日々社会にて起こる数多の困難に向き合い、尊いみ教えのもと「いのちの大切さ」を伝え、誰もがみなともに支え合いながら生きる、正しい信仰生活の実現を願うものです。

本年度も「同事」を柱とし、「ともに願い」ともに寄り添い「ともに歩む」の菩薩の誓願をさらに進め

るべく、次のように布教教化方針を定めます。

一、一仏兩祖のおとなえの普及に努めます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを相承し、心安らかに毎日の生活を送ります。

二、あらゆる差別の撤廃と人権啓発の活動にとりくみます。

私たちは、菩薩の誓願をもとに、さまざまにかたちを変えていく差別やいじめ、虐待などの問題を直視し、その未然防止と差別撤廃・人権確立のための歩みを続けます。

三、ともに喜びを分かち合える平和な社会の実現をめざします。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を忘れず、非戦を誓います。恒久平和実現のために、国や民族の垣根を超えた相互理解と協調による道をともに歩みます。四、地球環境がすべての生きとし生けるものを支えていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動」(グリーン・プラン)を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひと

つであることを深く自覚し、未来の地球の姿を思い、自分だけでなく、周囲を大切にすることで環境に配慮した生活をいたします。

五、孤立する人びとと向き合い、支えます。

私たちは、年間自死者数が未だ三万人近い状況を重く受け止め、遺族の苦悩に向き合います。自死者や孤独死などを出さないよう地域社会のネットワークを作り、人びとと関わり見守ることに努め、支えます。また、高齢化社会を見据え、地域での声の掛け合いを進めます。

六、人びととの出会いの中で菩薩行を実践していきます。

私たちは、継続して被災地支援を進めます。また悲しみと苦難の中にいる人びとに寄り添い、身近なところからのボランティア活動など、互いに生きる喜びが見出せるよう、心の支えとしての菩薩行につとめます。

七、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。

私たちは、積極的に地域社会へはたらきかけ、寺院を広く開放して人びととの絆をより強めてまいります。

# 統監挨拶

護国山国分寺 住職 長尾 武士



本年度の告諭・布教教化方針は昨年同様四摂法の「同事」を柱にしたもので、釜田宗務総長内局のスローガンは「ともに願ひ ともに寄り添い ともに歩む」です。昨年の教化センター事業への管内寺院皆様のご協力はスローガンどおりで、有難く深く感謝申し上げます。

しかし、新聞やニュースなどで、世界情勢に目を向けますと、数年前までは世界の経済・安全面などは各国が協力して一体になっていたようでしたが、昨年からは釜田内局のスローガンと全く違う方向に進んで行くように感じられます。

大国・先進国と呼ばれる欧州諸国では、経済・外交などの面で一致団結して発展と拡大をしてきた欧州連合(EU)より、昨年主要国の一つである英国が国民投票で離脱を決定しました。他のEU諸国でも英国に追従するような動きもあり、自国の利益を優先するように変わってきたようです。米国では、トランプ大統領に政権が変わり、大統領の唱える「アメリカ・ファースト」政策により経済や軍事などの方面で壁を作り、米国以外の国を圧倒しようとしています。中国・ロシアなどの大国は自国の経済・安全面の発展のみを考えているように思われます。

世界情勢は各国の利害関係で混迷していますので、とても一寺院・一僧侶では、できる事など殆どないのが現実です。

明治維新に大きな影響を与えた、高知のジョン万次郎は、十四

歳の時初めて漁にでて暴風にあい遭難し、米国の捕鯨船に救われました。鎖国政策の日本に帰れませので、米国に渡航する事を決断します。万次郎が決断した一つの理由は、航海中に買って出て船の見張りをしている最中に大きな鯨を発見し、いち早く乗組員に伝え、それにより鯨を素早く捕獲することができました。その貢献を船長はじめ船員が祝福し「たとえ子供でも国や人種が違っても全体に貢献すればおしみなく賞賛する」という精神に触れたからだと言っております。この精神は、救ってくれた船の船尾にも書かれていた偉大なラテン語「エ・プルピウス・ウナム(E pluribus unum)」であると記しています。この言葉はオバマ大統領も演説の折に好んで使っていました。多くものが集まってできた一つという意味で多様な人々でありつつアメリカ合衆国の

基本的な精神を表していて、米国の硬貨にはこの精神を忘れないようにとラテン語でそのまま刻まれているそうです。

この精神は『修証義』にある「同事」ということは不違なり、自にも不違なり侘にも不違なり」という教えと同じです。自分と自分を囲む全ての人やものの間に垣根をつくらぬことです。

本年はこの教えにて、混迷状況の社会にある人々の心に少しでも寄り添い、人種や宗教を越えて差別のない社会と世界の平和を願うことを皆様とご一緒に進めて行きたいと思えます。

最後に、今年度も教化センターの役員一同、尚一層に教化布教に努めてまいる所存ですので、倍旧のご支援、ご指導をお願い申し上げます。上げご挨拶させていただきます。

# 管区長退任挨拶

山口県宗務所所長

荒木 玄修



新年度を迎え、管区内諸老師におかれましては、益々ご健勝にて四衆接化の御事と拝察申し上げます。

近年、地震等各種の自然災害が頻発する中、直接、あるいは間接的に被害にあわれたご寺院さまやすべての方々々に心より御見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を祈念致しております。

平成二十七年十二月に島根第一の永見所長老師より、中国管区長という重責を、順番とはいえ若輩の身でおあずかりする事となりました。任期中は、各所長老師、役員員の皆さま、統監老師・教化センターの皆さま、管内諸老師の皆さまのご教導とはげましをいただきながら、勤めさせていただきました事、心より厚く御礼申し上げます。

特に教化センター移転に関しましては、あまりあるご道愛、ご協

力を賜わり、無事移転できました事、重ねて御礼申し上げます。

中国管区内では、山間部の急速な過疎化、自治体の存続すらあぶない地域が多々あり、護持が困難な寺院も多くなつてくるでしょう。

一方都市部や若年層においては「SNS」依存が著しく、いじめや誹謗・中傷等、新しい人権問題が起こつています。

これからの布教化も多岐にわたり、教化センターにおいても地域にあった教化や行事が求められるようになるでしょう。

新しい管区長老師のもとで、各宗務所、教化センター、管内各御寺院が和合の中で協力しあい、すばらしい体制となる事を願っております。

共に願い、共に寄りそい、共に歩みながらどんな日であつても「日々は好日」となるようさらに精進弁通していききたいものです。

今後共、ご教導賜ります事を願ひ、皆さまと共に仏道を歩める喜びに感謝し、退任の挨拶といたします。

末筆ながら、各御寺院さまの隆昌を祈念致します。

# 管区長就任挨拶

広島県宗務所所長

垣井 龍顕



この度、前中国管区長 山口県宗務所長 荒木玄修老師が任期満了によりご退任となり、後任として小衾が管区長の重責を担うこととなりました。もとより不徳不才の私儀、全くその器ではございませんが、与えられた配役を精一杯勤めさせて頂きたいと存じます。

荒木玄修老師には管区長として、常に率先して物事に当たられるお姿は当に適任者であつたと存じます。特に任期中には長年の懸案であつた、「中国管区教化センター事務所の移転問題」に就きましては、度重なる宗務庁との協議並びに管区内の各宗務所、山口県宗務所内ご寺院様との協議など、ご辛労は如何ほどであつたらうかと拝察するところでございます。ここに改めて、山口県宗務所長老師を始め宗務所役職員の皆様には管区行政の遂行にご尽力賜りましたことに対しまして深く感謝し、衷心より御礼申し上げます。

さて、今私たちを取り巻く社会構造の変化(少子高齢化、過疎化)は年々加速化し、宗門においても色々

な課題が山積みしています。

特に葬儀についてはここ数年来「家族葬」が主流となり、少しずつ直葬(葬儀ではないと思ひますが)に形態が移行し、人々の価値観は大きく変化しています。そんな中で、「葬儀・法事」「お坊さん」も単なる商品として捉えられ、その対価は〇〇代、お礼として支払うことに何の違和感もなく、ただ限られたサービスを提供してくればそれで良いとする風潮が感じられます。

今人々は、僧侶には何も求めていないのでしょうか。私は人々の不安・苦しみ・悲しみにどれほど寄り添っているか、行動しているか、自問自答してみました。正直、出来ていない情けない自分を恥じ入るばかりです。

宮沢賢治の『雨ニモマケズ』の中に「行ッテ コハガラナクテモイ、トイヒ」と言う一節があります。この詩には「行ッテ」と言う言葉が何度も出てきます。当に行動することの大切さを私たちに教えてくれています。

これより中国管区教化センターを中心として、宗門のスローガンでもある「ともに願い・ともに寄り添い・ともに歩む」の菩薩の願行を旨とした布教化の実践を冀い、合わせて管区内御寺院諸老師のご指導ご支援をお願い申し上げます、就任の御挨拶とさせていただきます。

# 平成28年度 事業報告

4	4～5	教化センター前期連絡協議会	宗務庁
4	13	教化活動推進委員会	広島市ヒロデン 27年度事業報告 28年度事業計画
5	12	教化活動企画委員会	広島市アークホテル 教化資料、ラジオ放送の在り方について協議
5	12	教化資料等企画制作委員会	広島市アークホテル ラジオ原稿の点検、校正
5	13	センター布教師協議会	広島市アークホテル 28年度教化方針
6	3	曹洞宗婦人会中国管区役員会	広島市ヒロデン 各宗務所婦人会代表(各会長など) 10月の研修会(於:鳥取県皆生グランドホテル天水)での配役分担について
6	7～8	青少年教化指導者研修会	米子市 ワシントンホテルプラザ 講師 ◎フリーアナウンサー 益村千代氏 講義Ⅰ『伝えることで夢を実現』 講義Ⅱ『惹きつけられる話し方とは?』 ◎鳥取県人権擁護推進主事 山脇俊英老師 人権学習『外国人労働者の強制労働に関する実状について』 ◎行政書士 八田久男氏 講義Ⅲ『法人登記に関する基礎知識』 受講者53名
7	4	教化資料等企画制作委員会	広島市アークホテル ラジオ原稿の点検、校正
7	11～12	管区役職員人権啓発研修会 管区人権啓発に関する協議会	萩市「萩本陣」講師◎高林公男、川口泰司 本庁、センター、管区長、各宗務所の人権擁護推進委員
7		子ども禅インサマーセミナー	本年度中止
9	6～7	センター布教協議会・講習会	米子市 米子全日空ホテル 講師 ◎長野県 常輪寺住職 特派布教師 中野天心老師 講義Ⅰ『転ずべきは法なり』 講義Ⅱ『葬儀や法事の場合は最高の説法道場』 ◎米子市人権政策課 池谷由美氏 人権学習『過去の差別から学び今を観る』 受講者100名
9	14	教化資料等企画制作委員会	広島市アークホテル ラジオ原稿の点検、校正
10	12	教化活動推進委員会	広島市ヒロデン 平成28年度報告 平成29年度計画 その他
10	14	禅をきく会〔管区センター主催〕	広島市 県民文化センター 講師 ◎千葉県 寶林寺住職 千葉公慈老師 演題『やさしい唯識のお話一心のしくみを考える』 ◎ちひろ氏 人権コンサート『ちひろトーク&コンサート-金子みすゞの心とともに-』 参加者総数約650名
10	18～19	曹洞宗婦人会中国管区研修会	米子市 皆生グランドホテル天水 講師 ◎静岡県可睡齋齋主 佐瀬道淳老師 演題『野生に学ぶ-共に生きること-』 ◎落語家 露の団六師匠 人権学習『ダウン症のアニキを持って』 ◎歌唱指導 福永博昭氏、恭子氏 ◎手話指導 内藤弘子氏、笠井桃子氏 参加者総数約230名
10	31～11/1	教化センター後期連絡協議会	宗務庁(主監会)
12	12	教化資料等企画制作委員会	広島市アークホテル ラジオ原稿の点検、校正
2	22～23	布教委員長会議	広島市ヒロデン ◎29年度行事予定 管区長 各宗務所役職員 センター ◎広島県 徳雲寺 高原一如老師 講演『仏教と福祉』
3	2	教化活動企画委員会	広島市アークホテル 教化資料、ラジオ放送の在り方について協議
3	3	教化資料等企画制作委員会	広島市アークホテル ラジオ原稿の点検、校正

## ラジオ放送〔広島市 RCCラジオ中国放送制作〕

毎週土曜・日曜日、朝5時台～6時台のAMラジオ放送『今日のこころ 私のこころ』→5分間枠

RCC中国放送(広島県・土・6時25分～)をキー局に、KRY山口放送(山口県・土・5時15分～)、RSK山陽放送(岡山県・日・6時10分～)、BSS山陰放送(山陰・日・6時45分～)の計4局で放送中。

※放送に際し、企画制作委員会を年5回、ラジオ収録を毎月1回実施

## 岡山県宗務所だより

### 行事報告

教化主事 山本 道雄

#### 《檀信徒地方研修会》

チベット出身のバイマーマンシン氏を講師にお招きし、「天に一番近いチベットからのお話」と題してご講演いただきました。先生は、以前梅花流の県大会でもご来岡いただいたのですが、参加対象者が異なるので再度お願いしました。多くの参加者から「善いお話だった」と好評を博しました。

#### 《梅花流岡山県奉詠大会》

今大会は、五十回の記念大会でした。そこで、九十才以上の講員に奨励賞、入構後二十年以上の講員に特別表彰、現在活動中の梅花講へ記念表彰を行いました。

また、記念講演にシンガーソングライターのやなせなな師をお迎えして、歌とトークで参加者の方々に感動を頂きました。

#### 《寺族会》

秋の移動研修では、広島市普門寺で坐禅と精進料理に法話を頂き、とても有り難い一日研修をしました。

#### 《婦人会》

総会後の講演では、落語家の春風亭鹿の子師匠をお迎えして、笑いを日常生活に取り入れた健康法を面白おかしく学びました。

#### 《現職研修》

宗務庁派遣講師による講義、人権学習に加えて、今回は「寺院運営と保険」について(株)ライフプラザパートナーズをお招きして勉強しました。

その他、第二十八回親子参禅(エンヂャレ寺)を永平寺にて開催しました。

## 広島県宗務所だより

### 平成二十八年行事活動報告

梅花主事 神原 正英

十月十四日、センター主催の「禅をきく会」が広島県民文化センターにて開催されました。檀信徒約五百名参加のもと、千葉公慈老師による「やさしい唯識のお話」心のしくみを考える」と題しての講演をいただきました。

十一月九日～十一日、檀信徒本山研修会を大本山永平寺にて行いました。檀信徒百十名が参加され、下山後は智源寺様を参拝し、天橋立や出石の街並みなど観光しました。

十一月二十一日～二十二日、現職研修会を開催し、川口高風老師をお招きし「お袈裟について」と題して、また人権学習会では金田諦應老師をお招きし、「東日本大震災・カフェモックの活動」と題し、充実した講義をしていただきました。

梅花関係におきましては、今年六月二十七日に行われます梅花流広島県奉詠大会(於 三原にいたかホール)は五十回の節目を迎えます。広島県梅花講の講員数は年々減少傾向にあります。大会参加者も毎年3%～5%減少しており、昨年は四百名余りの参加でした。そこで、広島県内の梅花講の現状把握と今後の発展の参考にする為、昨年十月に県内全七十一講に対してアンケートを実施いたしました。その結果、一般講員さんの寺院検定での課題曲である「浄心」「梅花」「誕生」「菩提」「溪声」などは法要でもお唱えする機会がほとんどなく、検定の為だけの曲になっているなど課題も見つかりました。講員の皆さんが親しみをもってお唱え出来るような環境を作っていく必要があると感じております。

最後になりましたが、本年より二年間、中国管区の事業を広島県宗務所が担うこととなりました。皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

## 山口県宗務所だより

### 人権社会をめざして

教化主事 山本 昌男

山口県宗務所では、人権擁護の推進に力を入れており、数年前より孤独ゼロを目指した「傾聴テレホン」を開設致しておりますことは既にご承知の事と思いますが、さらなる人権社会を築く一助になればと、昨年より一般公開の人権学習会を開催すること致しました。

もちろん各宗務所様におかれましても、現職研修会や婦人会などで、必ず人権学習を行っていらつしやると存じますが、あくまで宗門内に向いての学習会となっており、山口県宗務所といたしましては、宗門外の人に人権啓発活動をする必要があるのでは、宗教界に人権意思の指摘をされ四半世紀以上が過ぎた今日において、外向きの積極的な活動をする時代が来ているのではないかと考え、宗務所護持会の人権学習に合わせ、宗務所の関係団体、仏具関係・事務関係の出入りの業者の方々に広く声を掛け、講師には落語家の露の新治師匠を招き、約百名の方々にご参集いただき、人権学習会を開催致しました。

ご参加いただいたいたある宿泊業の女性の方が「とっても楽しく勉強させていただきました。本当に勉強になりました。ありがとうございます。ありがとうございました。」と声を掛けて下さいました。

今日では、子供達でも「いじめ」という事象から、人権や思いやりを深く考える時代となつています。私たち大人が、そして宗教者が、もっともつと人権や思いやりを発信していく時代になっていくのではないかと感じております。

# 鳥取県宗務所だより

## 平成二十八年度行事報告

庶務主事 網師本 正美

### 《檀信徒本山研修会》

六月二十二日～七月一日にかけて、二六九名(三班)の参加を得て、大本山永平寺様に参拝させていただきました。また、京都建仁寺に参拝見学し、往時の禅宗文化の一端に触れることができました。

### 《現職研修会》

九月十五日～十六日、県中部の三朝館において、七十七名参加による現職研修会を開催しました。講師には昨年に続き檀道信老師をお迎えし、歎仏会声明の熱心なご指導いただきました。また、本庁派遣講師、菅原研州老師より「坐禅会を始めるために」の講義、鳥取県人権教育アドバイザー、佐藤淳子氏による講演を聴講しました。

### 《檀信徒地方研修会》

九月二十八日、中部ハワイアロホールにて、北信越管区教化センター統監、増田友厚老師による「今、ここで、慈念に生きる」というお話をうかがいました。四五〇名の檀信徒に人としての生き方を、心に染み入るようなお話をいただきました。

### 《人権学習会》

七月六日、倉吉交流プラザにて元・大阪府立大教授、上杉聰先生による「部落史から学ぶ」という講義を聴講し、時代による差別意識の差異について学習しました。

鳥取県中部地震では関係各位の皆様より、過分なるお見舞金を賜りまして誠にありがとうございました。この場を借りまして、改めて深く感謝申し上げます。

# 鳥根県第一宗務所だより

## 二十四時間三百六十五日営業の宗務所

庶務主事 堅田 俊彦

四月の宗務所会に始まり、六月に「檀信徒と共に祈る集い」と題する檀信徒地方研修会、八月に藤田一照老師を講師にお招きしての現職研修会、九月に人権学習会、十月に梅花流岩手県師範会様にご参加いただいた梅花流島一奉詠大会等を主な行事として活動して参りました。当宗務所は寺院数百十九ヶ寺の宗務所です。それぞれ予算も限られる中、職員と僧侶が知恵を出し合い、充実した事業展開が出来た事と思います。

小規模であることのデメリットは多々ありますが、逆に小規模だからこそ出来る事を考えています。役員は月一回の役員会議の場でしょうか顔合わせできませんが、その分「SNS」等を活用して役員同士のコミュニケーションを図り、檀務に支障をきたさない様に、それぞれのペースで職務を勤めている事もその一例であると思います。事業を担当主事が企画し、役員にそれをプレゼンして自由に意見を出し合い、よりよい事業展開をしていくように勤めてまいりました。二十四時間三百六十五日営業の宗務所という「大変だ!」と思われるかもしれませんが、時間が有効に使い、自分のペースで業務をすることが出来るかと考えると、宗務所の仕事もより楽しく出来るのではないかと考えます。

平成二十九年度も主な事業は引き続き展開していく予定です。今まで以上に充実した実りある事業を目指してまいります。

# 鳥根県第二宗務所だより

## 教化活動の報告と展望

教化主事 板倉 省吾

昨年三月二十八・二十九日には、横田町八川の高禅寺を主会場に従弟研修会を実施。「食育」をテーマとしてそば打ちや羽釜炊飯の体験のほか、「奥出雲讚菓松葉屋」さんの和菓子工場を見学しました。

六月三日の寺族会研修会と九月三・四日の現職研修会では、共通課題として「寺院運営と保険」と題した講義を実施しました。講師を、株式会社ライフプラザパートナーズより、柴田正樹氏と嶋澤亜弥子氏にお務め頂きました。

六月二十七日から二十九日にかけて、檀信徒本山研修旅行を実施し、大本山永平寺のほか、滋賀県高島市の朽木興聖寺などを参詣しました。参加者一五三名。当該回から参加回数報告制度を見直し、宗務所独自の輪絡子止めを作製。参加回数に応じて彩色し、積徳を可視化しました。

十一月二十二日には、出雲市斐川町の斐川文化会館を会場に檀信徒地方研修会を開催。講師には、岡山県笠岡市・威徳寺出身の音楽文化研究家・長田暁二氏をお招きし、「歌に潜む仏教の心」と題した講演会を行いました。

十二月十三日の布教委員会・人権擁護推進委員会共同の講習会では、「特定非営利活動法人ゆうあい(山陰バリアフリーセンター)」からご出講頂き、車椅子や視覚障害による歩行・支援体験をしました。

平成二十九年度は、右記をはじめとした所定の行事を実施する他に、「内向き」「外向き」二方向の企画を検討しています。

「内向き」は、僧侶の「縁結び」企画です。本庁主催の『ほほえみの集い』の地方版とも言えるもので、宗務所主催によって、より地域性を特化した内容にする予定です。

「外向き」は、宗務所主催の坐禅会です。当宗務所は会館を有し、独自に宗教法人格を取得しています。その適格性を向上させるための企画です。

# 紙上法話

## 「今」を生きる

センター布教師 運西寺住職 坂上興道



私の住む所は五百九十四世帯、人口千二百人程の小さな山間の町です。四年前中学校が閉校になり、中学生は隣町の中学校へ通うようになりました。そして昨年度には小学校も閉校となり、今年度からは近隣四校が集まり、やはり隣町に新設の小学校としてスタートいたしました。

中学校、小学校と閉校の話が持ち上がると、地域の多くの方は反対をしました。

「学校が無くなれば過疎化が進む。」

「町内で子供達の声が聞こえなくなると寂しい。」

「少なくとも何とかなった方が良いでしょう。」等々、様々な声が聞こえてきました。

しかし、時代の流れとはいえ、閉校・統廃合している学校は私の町だけでなく、全国的に増えていると聞きます。

私は、小学生の子供を持つ一人の親として複雑な気持ちでおりました。

反対する方々の気持ちはよく分かる、しかし子供達の側からすると、友達や沢山いた方が良く、大勢で切磋琢磨できる環境も必要ではないか、そう感じておりました。

運西寺では平成二十四年より、夏休みに「寺子屋くらぶ」、一昨年からは週に一度の習字教室を行っております。いずれも十〜二十人程の子供が集まり、いつでも元気いっぱい姿を見せてくれます。

その様な中で子供達とふれ合う内、私は、学校が無くなり、町の過疎化が進む、また少しずつ町が寂しくなっても、子供達は常に前に進んでいる、と考える様になりました。

私はまだまだ若輩の若僧ですが、それでも年を重ねる毎に、過ぎた事を振り返ったり、先の事ばかりを考える事が増えてきたように感じます。しかし、子供達にあるのは「今」なのです。子供達にとって「今」が全てで、「今」しか無い。子供達と関わることで、本来有るべき姿に気付かせていただいた様に思います。

学校だけでなく、過疎地寺院の問題も聞こえて久しくなっております。勿論当山もその内です。

「このまま過疎化が進み檀家数が減ったら、寺院の維持管理が難しい。」

「布教教化しようにも、まず人がいない」  
色々と思いはございます。

しかし、子供達に学ぶなら、やはり「今」しかないのです。私の第一にやるべき事は過去を振り返る事でもなく、先の事ばかり考える事でも無い、「今」を大切に、正しく仏法を生きることだと感じております。

もしかしらば、五十年後、百年後に寺院も存続が難しくなる時代が来るかもしれません。その時までも、正しく仏法が伝わる様、「今」を大切にして生きたいと思います。



# 青少年教化指導者研修会

## 研修会に参加して



益村千代氏

本年度より青少年教化員に任じられ、初めて当研修会に参加いたしました。各々分野の異なるご講義を拝聴し、有意義な研修会となりました。

益村千代氏は、相手に伝える情報「情」を感情の「情」にかえる工夫をして、何か一つでも得意分野を持って世間と関わっていくことの大切さを説かれました。

山脇俊英老師は、外国人労働者の強制労働の過去の実例等を講義

されました。互いに寄り添い事を成し遂げる同事業の実践を心がけていきたいものです。

司法書士の八田久男氏は、「法人登記に関する基礎知識」と題して講義されました。私は、質問時間に任職をしている長谷寺の土地の名義変更等に関してお訊ねいたしました。質問に対し八田氏より適切なご助言を賜り、研修会后、長谷寺の責任役員で行政書士をされている方に八田氏のご助言を伝



山脇俊英 老師

えました。そして、境内地に隣接する畑の所有者を長谷寺の名義に変更し、更に「農地」を「境内地」



八田久男氏

に地目変更する手続きをすすめることになりました。その土地は、戦後の農地改革により長谷寺に二町ほどあった農地が国に強制買収され、耕作者に売り渡されるなかで、長谷寺の農地を残すため寺に住んでいた養女の名義にして難を逃れた土地でした。ただし、養女は亡くなり、相続人がいない状況でした。このたび諸々の法的な手続きを経て、境内地を拡張することができつつあります。



## 平成28年度青少年教化指導者研修会



平成二十八年六月七日（八日）  
於 米子市・ワシントンホテルプラザ  
メイン講師 フリーアナウンサー 益村 千代氏  
鳥取県宗務所 長谷寺 石田 貴道

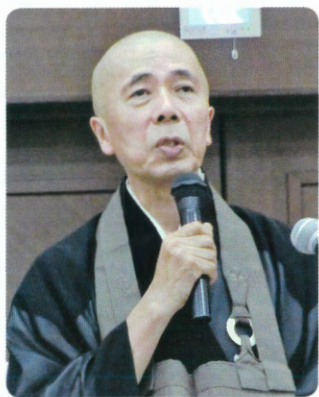
# センター布教協議会・講習会

## 布教協議会・講習会 に参加して

「平成二十八年度中国管区教化センター布教協議会・講習会」が、去る九月六日～七日の二日間の日程で鳥取県米子全日空ホテルにおいて開催されました。

講義は、長野県常輪寺御住職中野天心老師、米子市人権政策課池谷由美氏のお二人を講師にお迎えて行われました。

一日目の講義は、中野老師が「転ずべきは法なり」「葬儀や法事の場は最高の説法道場」と題してお



中野天心 老師

話をされました。

お釈迦様、道元禪師さまたちの教えを私達はどのように伝え、また葬儀など仏事の場面をどう活かしていくのかということ学びました。

葬式仏教と揶揄されたりする中で、いま私自身いろいろと悩み考えている時でありました。

今回の講義を聞き、葬儀や法事などが僧侶に対してお願いし頼ってこられて続いてきた意味合いというものを見つめ直し、布教をする上ではまず仏事の重要性や意味など集った方々に深い共感と納得を得ていただくようにしなくてはいけないのだろうと改めて感じました。

二日目の講義は、人権学習として池谷先生が「人とひととのつながりに」〜今ここに生かされていることに感謝 みんながしあわせになるために〜と題してお話をされました。

ポルフィリン症という難病を



平成二十八年九月六日～七日

於 米子市・全日空ホテル

メイン講師 曹洞宗特派布教師  
長野県常輪寺住職

中野天心 老師

島根県妙楽寺住職

森井 宗淳

森井 宗淳



池谷由美 氏

患った先生のお子様のお話を通しての講義でした。

恥ずかしながら私は、ポルフィリン症という病気の症状もましてや名前すら聞いたことはありませんでした。ポルフェリン症には数種類があるとのことでしたが、お子様は小学生の時に突如発症した皮膚に障害が現れるタイプで、紫外線を浴びてはならず、私達が普段何気なく浴びている日光を避けなければならぬというものでした。

日常生活を過ごす上で、マスクなどを被ったり日焼け止めを塗ったりなど多くの注意を払いながら過ごしておられるとのことでした。

た。

まだまだ知らない病気が数多くあり、決して他人ごとではないこととであり、学ぶこと、理解していくことへの大事さを感じました。講習会の最後には、布教実演が行われました。

今回は、鳥取、島根第一、島根第二の各宗務所から一人ずつとセンター布教師の白澤和敬老師が実演されました。

他の方の法話を聞くことにより、自分自身の法話が聞く方へどのようにつたわっているのか、また時間の長さなどがどう感じるのかなど、客観的に見ることでできた気がしました。

今回の二日間の講習を通して、一人の僧侶として、一人の人間として多くのことを勉強させていただきました。

この機会を与えていただきました諸老師方に感謝申し上げます。ありがとうございます。乱筆失礼いたしました。

# 禅をきく会

講師

千葉 公慈 老師



センター主催

平成二十八年十月十四日  
於…広島県広島市

「県民文化センター」

●広島県尾道市 天寧寺  
坐禅会  
藤井周子

十月十四日(金)、広島市県民文化センターに、千葉公慈老師(千葉県寶林寺住職)をお迎えして「やさしい唯識のお話」についての講話が開催されました。専門的なお話の様で少々難解かなと思いました。

「心のしくみ、心のくせ」を知ると云う人間のもっている心のくせ・はたらきには、まず心は何から出来ているか。心はどういう原語で出来ているかという事。具体的に標記して下さっていました。仏典では「心」をどのように表現しているかでは、ものごとは心に導かれ「心」を主とした「心」によって成り立っている。

もしも乱れた心で語り、あるいは行動するならば、苦しみがその人について行く。第一傷もしも正しい心で語り、あるいは行動するならば、楽しみがその人について行く。第二傷心はどの様にはたらくか。

バーチャル：現実を考えない  
唯識：現実をとらえる為に考  
える心

心はどうやって本物を見抜くのかを三段階で表現。三毒(貪・瞋・癡)等々。

道元禅師の言葉に「喜心、老心、大心」の「三心」は三つの心を常に持ちつづけるべきと教示されています。「威儀即仏法」私事ですが「天寧寺」の坐禅会に日・火・木曜と週三回参禅しています。「調身」「調息」「調心」のうち「調心」は仲々心を整えるという事は難しいです。雑念が頭を「よぎり」集中するのが難しいです。けれども四十分坐った後はすっきりとし



ますよ。

「人権コンサート」では「ちひろ」さんが、金子みすゞの詩をピアノで弾きながら唄ってくださいました。「大漁」はとても感動しました。

酒井大岳師は「詩と仏教」の中で「心眼で観る世界」だとおっしゃっています。ものの「いち」を冷たい目で見る「目線」では無く、あたたかい「まなざし」で見守ることの大切さだと。人は年を重ね「おだやかな」気持ちで日々を過ごしたいものです。

# 曹洞宗婦人会中国管区研修会

## 曹洞宗婦人会の宝

平成二十八年十月十八日から十九日にかけて、婦人会員二五〇名が一同に会し、鳥取県米子市の皆生温泉で中国管区研修会が開催されました。今回の研修会は道元禪師の教えである四摂法(布施、愛語、利行、同事)を基に作られた『会員の誓い』をテーマにした二日間の研修でした。

一日目は、可睡斎 齋主 佐瀬道淳老師の『野生に学ぶ共生きること』という演題でのご法話から始まりました。現代人のおごり、もっと自然界から学びシンプ



佐瀬道淳 老師



歌唱指導

ルに生きることを提案されました。

続いたの講演では歌唱指導をしていただき『四弘誓願』、『あなたとわたし』(婦人会の歌)、『まごころに生きる』などを参加者全員で歌いました。そしてステキなサックス演奏も楽しみました。

二日目は落語家の露の団六師匠の『ダウン症のアニキをもって』という演題で落語と講演を拝聴しました。二歳年上でダウン症のお兄さんがおられる団六師匠の「障碍のあることが不幸だとか、かわいそうだとか思わない、そして思わせない偏見のない社会を実現したい。」という言葉が心に染みしました。二日目の最後の研修は手話指導



でした。『あなたとわたし』(婦人会の歌)などの歌と、『会員の誓い』を手話で学びました。参加者が熱心に手話を学び、会場が一体となって温かい空気に包まれたひと時でした。

『会員の誓い』は婦人会発足から十年後の昭和六十一年に制定されました。四摂法の布施、愛語、利行、同事という教えを分かり易く表現しています。この誓いの言葉を考えて下さった婦人会の先輩方に頭が下がります。『会員の誓い』は婦人会のすばらしい宝だと感じています。これを日常生活で実践する事が、仏教徒としての生き方の基本であると思います。今回の研



露の団六師匠



手話指導

修会は、講演内容をこの『会員の誓い』に基づいて構成いたしました。

残念ながら、現代は深刻な問題の多い社会です。そんな社会だからこそ仏教徒として、優しい笑顔で相手の幸せを祈り、手を取り合っ

て共に生きることを目指していきたいと思えます。これからも美しい心のふれあいが大きく広がっていくことを願ってやみません。今回、私は実行委員長という重責を担って研修会を開催いたしました。至らない所ばかりで、本当にたくさんの方々にご助力賜りましたことを感謝申し上げます。ご報告とさせていただきます。

平成二十八年十月十八日～十九日

於 米子市・皆生グランドホテル 天水

メイン講師 静岡岡可睡斎齋主 佐瀬道淳 老師

鳥取県瑞仙寺 八日会 長曾 景子

# 管区事業報告

曹洞宗中国管区・人権擁護推進本部共催

## 管区内宗務所・教化センター役職員等 人権啓発研修会

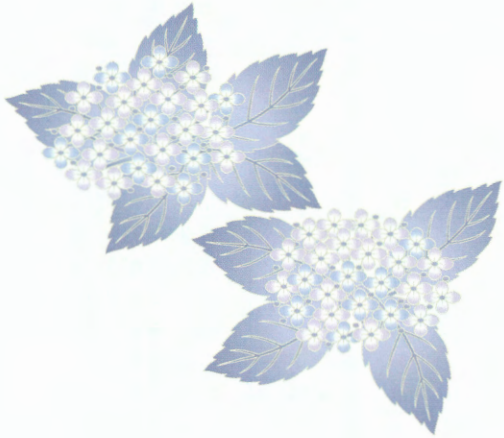
平成二十八年七月十一日(月)～  
十二日(火)の両日、山口県萩市「萩  
本陣」に於いて、管区内宗務所・  
教化センター役職員を対象に首記  
研修会が開催された。

初めに、被差別戒名物故者、国  
内外地震風水害物故者、万国戦死  
病殉難者、人権侵害による自死者  
等に黙祷が捧げられた。本尊上供・  
宗歌斉唱に引き続き管区長挨拶、  
教化センター統監挨拶、人権擁護  
推進本部挨拶並びに取り組み報告  
をもって開講式終えた。

続いて講演【1】、「明治維新の  
地・萩の被差別民」と題し講師に  
山口県人権・同和教育研究協議会  
委員長、山口県立萩商工高等学校  
教諭、高林公男氏をお迎えし講演  
をいただいた。引き続きフィール  
ドワークとしてバス移動し、吉田  
稔磨・松陰の誕生の地、墓地、大  
屋(谷)刑場跡、萩博物館、野山・  
岩倉獄跡、反射炉といった明治維

新関連箇所の見学となった。

二日目は、講演【2】、「山口県  
内における部落差別の実態」と題  
し講師に山口県人権啓発センター  
事務局長、川口泰司に講演いた  
だき閉校式となった。その後刻本  
庁・センター・管区長・各宗務所  
人権擁護推進委員による人権啓発  
に関する協議会にて全日程を終了  
した。



平成二十八年年度

## 曹洞宗中国管区布教委員長・役職員会議

平成二十九年二月二十二日  
(水)、二十三日(木)の両日、広島  
市「ホテルニューヒロデン」にお  
いて開催された。

開講諷経、宗歌斉唱の後管区長  
挨拶、教化センター統監挨拶。引  
き続き議事に移り、平成二十八  
年度行事報告・決算報告、監査報告  
がなされ続いて平成二十九年年度行  
事計画(案)、予算(案)が上程され  
承認となった。

引き続き「仏教と福祉」と題し、  
広島県庄原市、徳雲寺住職・高原  
一如老師に講演いただいた。老師  
は、福祉施設経営の中での苦勞と  
仏教或いは僧侶としての役割の重  
要性、今後どのように関わってい  
くのか等懇切丁寧にお話をいた  
だいた。

休憩を挟んで来たる十一月六日  
(月)、平成二十九年宗門護持会  
管区集会について管区より大まか  
な日程説明と質疑応答を受け閉会

となった。そして、夕食・懇親会  
では四十四名の参加となり情報交  
換、懇親を親しく深められた。



## 平成29年ラジオ法話「今日のこころ 私のこころ」放送予定日

回数	放送日	県名	寺院名	担当者	役職等
444	4月1日、2日	鳥取県西伯郡	長寿寺副	古川和彦	宗務所布教師
445	4月8日、9日	鳥取県西伯郡	普音寺	山脇良円	青少年教員
446	4月15日、16日	島根県益田市	養光寺	熊谷利範	
447	4月22日、23日	島根県益田市	海雲寺副	城市泰紀	青少年教員
448	4月29日、30日	島根県出雲市	浄行寺	伊藤隆邦	青少年教員
449	5月6日、7日	島根県松江市	福正寺	青木壯文	宗務所長
450	5月13日、14日	岡山県笠岡市	威徳寺	片田宗玄	
451	5月20日、21日	広島県庄原市	萬福寺	高橋道英	宗務所布教師
452	5月27日、28日	山口県萩市	全柳寺	山本昌男	宗務所教化主事
453	6月3日、4日	鳥取県倉吉市	源徳院	秋久重規	青少年教員
454	6月10日、11日	島根県益田市	西禅寺	小川裕史	センター布教師
455	6月17日、18日	島根県安来市	松源寺	佐瀬宏洋	宗務所布教師
456	6月24日、25日	岡山県井原市	中興寺	野口祥善	センター布教師
457	7月1日、2日	広島県尾道市	運西寺	坂上興道	センター布教師
458	7月8日、9日	山口県周南市	真福寺副	大野泰生	宗務所布教師
459	7月15日、16日	鳥取県倉吉市	正明寺	白澤和敬	センター布教師
460	7月22日、23日	島根県大田市	瑞應寺副	森山康仙	
461	7月29日、30日	島根県松江市	弘長寺	森田裕光	センター布教師
462	8月5日、6日	岡山県津山市	長安寺副	久保泰道	宗務所布教師
463	8月12日、13日	広島県福山市	昌源寺	村田昭元	青少年教員
464	8月19日、20日	山口県山口市	妙寿院	中村大真	宗務所布教師
465	8月26日、27日	鳥取県米子市	瑞仙寺	長曾宏隆	青少年教員
466	9月2日、3日	島根県江津市	長久寺	樋谷雅豊	宗務所布教師
467	9月9日、10日	島根県安来市	地福寺	大坂恵司	宗務所議員
468	9月16日、17日	岡山県倉敷市	千光寺	山本道雄	宗務所教化主事
469	9月23日、24日	広島県府中市	松林寺	英純光	宗務所布教師
470	9月30日、10月1日	山口県萩市	周鷹寺	斎藤周三	宗務所布教師
471	10月7日、8日	鳥取県八頭郡	興雲寺	吉田廉士	
472	10月14日、15日	島根県邑智郡	長源寺	森田仁政	
473	10月21日、22日	島根県松江市	法船寺	上野泰裕	宗務所書記
474	10月28日、29日	岡山県高梁市	高昌寺	金光達郎	
475	11月4日、5日	広島県三原市	西福寺副	高山博光	青少年教員
476	11月11日、12日	山口県防府市	玉林寺	佐々木覚全	宗務所布教師
477	11月18日、19日	鳥取県東伯郡	安福寺	金田文丈	
478	11月25日、26日	島根県浜田市	禅床院	水谷一正	
479	12月2日、3日	島根県松江市	吉祥寺	樋谷宗芳	
480	12月9日、10日	岡山県真庭市	西福寺	山田良天	青少年教員
481	12月16日、17日	広島県庄原市	浄光寺	古川承久	青少年教員
482	12月23日、24日	山口県山口市	南湘院	椿正春	宗務所布教師
483	12月30日、31日	鳥取県日野郡	永福寺	米積孝賢	青少年教員

※上記一覧の予定は変更する場合がありますので御了承ください。

ラジオ局	地域	周波数	曜日	放送時間
RCC(広島)	広島市	1350kHz	土曜日	6:25~6:30
	福山市・三原市・府中市	1530kHz		
	三次市・庄原市	1458kHz		
KRY(山口)	山口市	1458kHz	土曜日	5:10~5:15
	萩市	1485kHz		
	下関市・岩国市	918kHz		
RSK(岡山)	岡山県	1494kHz	日曜日	6:10~6:15
BSS(山陰)	鳥取市・出雲市・益田市	1431kHz	日曜日	6:45~6:50
	倉吉市・江津市・浜田市	1557kHz		
	米子市・松江市・境港市	900kHz		
	大田市	1485kHz		

**曹洞宗ラジオ法話放送**  
**「今日のこころ 私のこころ」**  
**放送日のご案内**

# お知らせ

## センター布教協議会・講習会

- 日時 平成29年9月4日(月)正午受付  
13時開講～5日(火)正午まで
- 会場 松江市 玉造温泉皆美
- 講師 新潟県東龍寺住職  
前大本山永平寺布教部長  
**渡邊 宣昭 老師**
- 参加費 14,000円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申込先 各宗務所
- お問い合わせ先 教化センター

## 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成29年6月15日(木)正午受付  
13時開講～16日(金)正午まで
- 会場 広島市アークホテル広島駅南
- 講師 全国青少年教化協議会 主幹  
**神 仁 老師**
- 参加費 13,000円
- 対象 青少年教化委員
- 申込先 教化センター
- お問い合わせ先 教化センター

## センター布教師 紹介



鳥取県 第八十八番 正明寺  
住職 **白澤 和敬 老師**  
倉吉市福富三二二  
電話〇八五八―二八―三二六〇



広島県 第八十八番 運西寺  
住職 **坂上 興道 老師**  
尾道市原田町梶山田七七〇  
電話〇八四八―三八―〇二〇三



岡山県 第十八番 中興寺  
住職 **野口 祥善 老師**  
井原市美星町星田七一七一  
電話〇八六六―八七―三〇五四



山口県 第二十七番 長徳寺  
住職 **河谷 正也 老師**  
山口市秋穂東七〇五二  
電話〇八三一―九八四―三四五四



鳥根県 第三〇九番 西禪寺  
住職 **小川 裕史 老師**  
益田市本俣賀町五  
電話〇八五六―二五―二九〇五

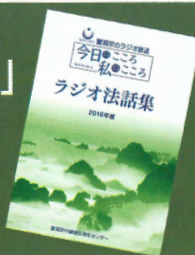


鳥根県 第四十七番 弘長寺  
住職 **森田 裕光 老師**  
松江市宍道町東来待八五四  
電話〇八五二―六六一―〇二二八

曹洞宗ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」

## ラジオ法話集 2016年版

《7月～17年3月放送分》 39話収録







この度、1冊実費1,000円(送料込)で頒布いたします。  
曹洞宗中国管区教化センターまでお申し込みください。

# 平成29年度事業計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

月	日	行 事	主 催	備 考
4	4(火)～5(水) 13(木) 14(金) 下旬	全国教化センター前期連絡協議会 センター布教師協議会 教化活動推進委員会 中国管区教化センター報第33号発行	宗 務 庁 センター センター センター	広島市 アークホテル広島駅南 広島市 ホテルニューヒロデン
5	25(木) 26(金)	教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会	センター センター	広島市 アークホテル広島駅南 広島市 アークホテル広島駅南
6	8(木) 15(木)～16(金)	曹洞宗婦人会中国管区役員会 青少年教化指導者研修会	センター センター	広島市 ホテルニューヒロデン 広島市 アークホテル広島駅南
7	3(月)～4(火) 27(木)～28(金)	管区役職員人権啓発研修会、人権啓発に関する協議会 第32回子ども禅インサマーセミナー	管 区 センター	広島市 サンルート広島 呉市 県民の浜
8				
9	4(月)～5(火) ( )	センター布教協議会・講習会 教化資料等企画制作委員会	センター センター	松江市 玉造温泉 皆美
10	12(木) 24(火)～25(水)	教化活動推進委員会 曹洞宗婦人会中国管区研修会	センター 婦 人 会	広島市 山口市 湯田温泉 かめ福
11	( )～( ) 6(月)～7(火) 30(木)	全国教化センター後期連絡協議会(主監) 管区護持会集会 禅をきく会	宗務庁(予定) 管 区 センター	広島県廿日市市 安芸グランドホテル 米子市 米子市文化ホール
12				
1	下旬	中国管区教化センター報第34号編集会議	センター	
2	( ) ( )	教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会	センター センター	
3				
4月～3月(毎週土・日)		ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」 布教委員長会議 文化講座	センター 管 区 センター	RCC中国放送(キー局)

## ■センター役職員

	統 監	長尾 武士	国 分 寺	〒682-0942 鳥取県倉吉市国府430	☎(0858)28-4183
	主 監	和田 光史	傳 燈 寺	〒689-4233 鳥取県西伯郡伯耆町二部1519	☎(0859)62-7189
	賛 事	瀬田 啓道	雲 光 寺	〒683-0225 鳥取県西伯郡南部町御内谷1205	☎(0859)64-3023
	賛 事	藤島 義信	長 見 寺	〒692-0206 島根県安来市伯太町安田960	☎(0854)37-0515

## 編集後記

今年に入ってから一月下旬から二月初旬にかけて記録的な大雪に見舞われた鳥取県でありました。そして、教化センターも移転し、一年が経過し、手探りの状態で始めた業務ではありましたが、管区内宗務所様、御寺院様、関係各位の御助力、御支援を賜り昨年度を無事に終え、新年度を迎えますことに当たりこの誌面をお借りして厚く御礼感謝申し上げます。

混迷深まる世の中にあつて、世界をみても社会情勢は、多様に極めて厳しくなる一方であります。本年度も昨年と同様に管長陛下の告諭は「同事」のお諭しでございます。「自他一如」こそ同事の大きな力と最後にお示しでございます。布教教化の根本とし実践に努めて参ります。

本年度の事業は、昨年同様の事業を計画しておりますが、その中でもラジオ放送の成果は、様々な方面よりお声をいただき、ようやく土台ができたような手応えを感じようになりました。更には、昨年出来得なかった松江市での文化講座等一層に一般の方々にも曹洞禅、或いは仏教を身近に触れていただくことを進めてまいりたいと思っております。

管区内各御寺院様には、引き続き御教導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。